

乗鞍岳から野麦へ

1990年12月29～31日

メンバー 田中、鈴木、西川、岩崎、武部。

12月 29日 (土) 晴れ

バス終点のレストハウスで昼食をとり、身支度を整える。
それほど混雑もなく、ひとりずつヘアリフトに乗る。スムーズに
3本乗りついで、降り立てば、そこはもう標高2000m。楽なもので
ある。

ほぼ西へルートをとり、やや急な斜面を一つ登った所から、幅10m
前後の明瞭な切り開きとなる。スキーでつけられたトレースも近ひて
いる。天気は上々。年末の慌しさから解放されて、歩調に息
を合わせながら、着実に進む。1時間も登れば、正面に三角錐
形の剣ヶ峰が見えてくる。雪煙がまっ、風はかなり強そうだ。
1時間半程で、佐ヶ原の下、すぐ前方に道路のガードレールが見える。
2400m地点にテントを張る。

タイム： リフト下 12:50 — リフト終点 13:30 — 2400m地点

15:00

12/30 ①

風はあつたが天気はいい。高天ヶ原のコルに向けて出発。樹林帯を抜け、ハイマツ帯になりしばらくすとクラストしてきて助かる。大きな沢が2本直進を拒むが少し登ると思、たより容易に沢床に降りられ渡れた。乗鞍岳と高天ヶ原との谷間に入り前に一本。雲の中から穂高連峰が顔を出す。ハヶ岳がのんびり広が、ている。高天ヶ原のコルへと登る。ごく一部アイスバーンがあり、滑落したくなかつたのでトッポだ、た僕は、ダメとか言、てま、とリターンしてもうイケツにつく。コルは風で雪が氷りツルツル。そこを乗越した岳谷で一本。ここからは空身でアイゼンを持、てレールで登る。大日岳と頂上とのコル迄50m位にな、てくとアイスバーンになり、一番始めに僕がスキーを脱ぐ。Sさんはコル迄レールで登、てしま、た。感心。板は寝かせ、吹き溜まり気味の所にくい込ませてデポする。みんなもスキーを脱ぎアイゼンをつけコルに登る。コルから頂上迄はすぐそこ。Sさんは「しょうがないからアイゼンつけるか」と言いながらツメの丸ま、た一本締めアイゼンをつける。なぜか頂上へは僕とSさんの2人がアタック。思、たより雪は柔らかくすね迄踏る。最後10mは岩場が出てくる。大きな岩と岩の間の雪にスタンスをし、たときポゴッと雪が崩れヒヤッとする。後ろのSさんが、「この辺でいいだろう。」と言、り、あと5m

で頂上左のたとも思。だが、不安感と目的とを考えて同意し撤退する。コルはまともに立てない程の烈風の為、風下側のルートも、たがダメだ。た。目的は滑りことにあり。スキーのデポ地点からガッの近の滑降が、途中突風に困りながらこの山行中最も快適だ。た。ガッのを背負ってからの岳谷の滑降は、えぐれたジュカフ"ラで難かしかた。岳谷から離れ少し行くと下部が見渡せた。そこでルートの確認をする。神立原、濁川の車道、下部の1670mの台地が確認できる。ここから急にたる為遠くは見えても、目の錯覚で下部の1670mの台地へ続く尾根が確認できな。15分位議論し方位石転るに従い滑降する。すぐ密林地帯に入る。どうしてもな密林の中をなんとか行く。全滑降のうち9割がこの密林であ。た。4時になっても野麦は遠い。暗くた少し前や、と行動終了。みんまもうトト。この晩、僕がホエーブスのフレ"を給油のとき失くしてしまい、朝見つから。寝るときはエスパース4.5人天で5人。まさに戦場。でも今日は風もなく暖かい。(武部記)

天場 (2430m) 8:00 — 高天ヶ原のコル (9:40 — 10:00) — 頂上直下
10:50 — 高天ヶ原のコル (11:20 — 11:40) — 2300m 13:20 —
天場 (1660m) 16:40.

12月 31日 (月) 晴れ.

ツールを付け、左上の尾根を目指して進む。尾根に出れば、正面に御岳が望まれる。今日も天気はすばらしい。ほどなく、赤パンキ印を見つけそれに従って進む。ひとつ斜面を滑って、小さな尾根を無越して林道へ出る。振り返れば真っ青な空に白くそびえる乗鞍が美しい。

林道沿いに進んで鉄塔の下へ出る。最後の滑りとなる、左の沢は木が混んでおり、尾根通いに行つて、下の林道に出た方がよい。

野麦の村は数日前に降った雪におおわれて、静かな年末を向えていた。風呂へ入ろうと思っていた七峰館は休館であった。依頼したタクシーはなかなかつかまらず、結局、電話を借りた民宿坂屋のご主人が、バス停のある明野まで運んでくれた。

タイム： 出発 8:00 — 林道 8:50 / 9:10 — 鉄塔 9:20 / 9:40
— 下の林道 10:00 / 10:25 — 野麦 10:30

